

2026年 BSサミット事業協同組合 新春賀詞交歓会を開催

結成30周年の節目を迎えて



理事長挨拶抜粋

世界情勢と自動車産業の歴史的転換

2026年1月14日(水)、東京都港区のANAインターコンチネンタルホテル東京にて「2026年BSサミット事業協同組合 新春賀詞交歓会」を開催。政界をはじめ関係省庁からの来賓(2面・表参照)、自動車メーカー、損害保険会社、ロードサービス・アシスタンス会社、協賛会社が多数参集した本会冒頭の挨拶で、石井英幸理事長は「2026年はBSサミットにとって結成以来30周年を迎える記念すべき年です。私たちがこの1年をどのような思いで歩み、どのような未来を描くのか、その方向性を共有させていただきたい」と意気込みを語った。

変革、連携、そして創造で切り拓く 「次世代モビリティの未来」

現在、世界はウクライナ・物流の再編といった歴史的な変化の中にありま

国内状況と「自動運転の社会実装」への対応

国内に目を向けると、14年連続の人口減少の一方、乗用車の平均使用年数は13・87年と過去最

2026年の3つの柱 「変革、連携、創造」

① 変革(意識と構造の変革)

この大きな変動の波に対し、私たちは単なる受け手ではなく、再編の担い手へと変わらなければなりません。本年、私が掲げるキーワードは「変革、連携、創造」の3つです。

さらに、トヨタのウーブンシティに象徴される、自動運転の社会実装が進んでいます。モビリティは単なる移動手段から社会インフラへと進化し、オーナー車

同中心のモデルからサービスとしての移動(MaaS)へと変化しています。これにより、整備事業者の役割は、従来の社から直接選ばれる存在にな

え、欧州や日本でも走行距離課税の議論が始まるなど、産業構造そのものが再編のステージに入っています。私たち整備事業者は、この変動を単に受け入れる側ではなく、「再編の一部を担う存在」へと変わらなければなりません。EV対応のための整備士育成や設備投資を加速させることももちろん、走行距離管理やログサービスといった新たなビジネス機会を創出することが求められています。

③ 価値創造(自動運転への挑戦)

加え、BYD社や新たに提携を開始した韓国KIA社など、国内外のメーカーとの協力関係を深めています。また、若年層の顧客獲得に向けた「カーコンビニ倶楽部」との提携や、「オートバックス」との地域連携も加速させます。さらに、整備人材不足やレベルの問題に関しては、国土交通省との連携を密にし、適正取引の徹底に向けた情報提供を継続していきます。

「モビリティの安全産業」へと再定義します。AIやDXを活用した教育プログラムを整備し、データをもとに安全を保障する新しい整備像に挑戦します。

業界全体の課題解決に向けて

業界全体が直面する最大の課題として、私たちは「人材、技術、仕組み」の三つの領域において抜本的な対策を講じる必要があります。まず「人材」については、整備士の平均年齢が約47歳と高齢化し、若手が集まりにくい現状があります。これは単なる人手不足ではなく魅力不足が原因です。整備士を誇りある職業として社会に発信し、DX研修や経営学習を通じて人を残す組織を構築していく必要があります。次に「技術」面では、10年分の変化が1年で進むほどのスピード感に対し、組合と

2026年は、すべての次元で動き出す「変革と連携」による価値創造の年です。BSサミットの理念である「創造・挑戦・続ける実践集団」として、30年の歴史を胸に、新しい10年のスタンダードを築いていきましょう。自ら動き、学び、挑戦する連続の先にしか未来はありません。2026年を行動の年とし、整備業界の新たなスタンダードを築く誇りと自信を持って、共に前へ進んでまいりましょう。

2026年のキーワード

「変革」「連携」「価値創造」

変革 下請工場としての構造では、ディーラーや整備工場などの元受けから買入れを強いることが常態化

「下請体質からの脱却」「顧客の獲得」を求める

1997年 BSサミットが「日本版DRP」を初めて導入した団体となる

もしかして、『手動』で『保存』していませんか？

ブロードリーフのクラウドは、PC 端末に依存せず、高いセキュリティでデータを安全保管！

ブロードリーフの証跡管理サービスなら！

写真・記録簿・伝票

ガイドラインが求める3つをセットで自動保存

超人手不足の時代。業務をいかに自動化させるかがポイントです。ブロードリーフで完結させることで、高いコンプライアンス(透明性)と利便性が実現します。

.cシリーズ(基幹システム)

1 案件データ

① 写真(証跡)
② 記録簿(作業)
③ 伝票(料金)

透明性ガイドラインへの準拠

写真・記録簿・伝票が1画面でまとまっているので、顧客対応も便利

使用部品や実施作業が見え、作業進捗も把握

車検業務の効率化を支援！

スーパー検査員

スーパー検査員はミスなく、漏れのない記録簿の作成をサポートする指定整備工場様の車検に特化したクラウド型車検・点検支援システムです。

コンプライアンスの強化と業務効率化をサポート

特定整備制度にも対応あなたの車検業務がスムーズに！

インストール不要、端末フリー ※一部のOSには非対応です。

法改正、技術進化、監査に対する不安を解消

OSS電子申請対応 ※OSS対応は、追加機能となります。

お問合せ 株式会社ブロードリーフ 0120-47-2610 受付時間 9:00~17:30(土日祝・年末年始を除く)

スーパー検査員 詳細はこちら▼



証跡管理 詳細はこちら▼



2026年新春賀詞交歓会、盛大に開催

次なる飛躍に向けた30周年
変革と連携で「安全産業」の頂点を目指す

第1部：全体会議

変革の決意と「現場力」への信頼



基調講演を行う元プロ野球選手 里崎智也氏

き、BSサミットが業界変革の先頭に立ち続けることへの期待を寄せた。

第1部の締めくくりとして行われた基調講演では、元プロ野球選手 里崎智也氏が登壇した。里崎氏は「選択と決断」をテーマに、実践経験を優先した自身のキャリア

第2部：懇親会

官民一体となった「共存共栄」の実現へ

休憩を挟んで行われた第2部・懇親会は、黒木康男専務理事による開会挨拶でスタートした。黒木専務理事は、業界の健全な発展に向けた組織の姿勢を改めて強調した。

続いて来賓挨拶として、国土交通省の石原大物流自動車局長が登壇し、金子恭之大臣の祝辞を代読した。その中で、整備事業者が国民の命を守る重要な役割を担っていること、適切な修理費用の支払いが資金向上に反映される仕組み作りの必要性を強調した。国土交通省省庁として設置した情報提供窓口の活用を通じ、現場の声を反映した実効性のある施策を力強く実施する方針が示された。



乾杯の発声を行う赤池誠章氏



て、最終的に勝利を決するのは自由民主党の山本順三氏は、地元愛媛で体験した自動運転EVバスを例に挙げ、人類の知恵の進歩が整備事業の在り方を根本から変えつつあると発言した。政界の激動期にあつて、政治の安定が組合員の仕事の安定に直結すると説



齊藤鉄夫先生



中川秀直先生



西田実仁先生



山本順三先生



石原大様



若林洋平先生

政界からのご来賓

安全な自動車の車体を確保する議員連盟 顧問 BSサミット顧問 元自由民主党幹事長	中川 秀直先生
安全な自動車の車体を確保する議員連盟 顧問 公明党代表 衆議院議員 元国土交通大臣	齊藤 鉄夫先生
安全な自動車の車体を確保する議員連盟 会長 自由民主党 参議院議員 元国家公安委員長	山本 順三先生
安全な自動車の車体を確保する議員連盟 副会長 公明党幹事長 参議院議員	西田 実仁先生
安全な自動車の車体を確保する議員連盟 アドバイザー BSサミット顧問	赤池 誠章様
自由民主党 参議院議員	若林 洋平先生

官庁関係のご来賓

物流・自動車局 局長	石原 大 様
物流・自動車局 次長	久保田 秀暢様
物流・自動車局 自動車整備課 課長	多田 善隆様
物流・自動車局 自動車整備課 整備事業指導官	林 健一 様
物流・自動車局 自動車整備課 課長補佐	富岡 孝行様
物流・自動車局 自動車整備課 課長補佐	吉川 卓 様
経済産業政策局 産業組織課長	鮫島 大幸様
事業環境部 取引課長	小高 篤志様

「適切な支払い」を業界のスタンダードとし、物価高を克服する責

歓談中には、公明党幹事長の西田実仁氏が駆けつけ、本年施行された改正下請法(取適法)により「下請け」という呼称を「事業者」へ改めた意義を報告した。新たな30年の歴史を刻んでいくことを誓い、2026年新春賀詞交歓会は閉幕した。

上げを実現するために不退転の決意で取り組む姿勢を強調した。

また、自民党の若林洋平氏も登壇し、防衛政務官としての視点を交えながら、卓越した技術力で社会を支える組合員への敬意を表した。山積する課題解決のためには政治の安定が必要であるとし、現場の苦勞や技術を国政に届け、業界の飛躍を後押ししていく決意を語った。

盛会のうちに時間は過ぎ、最後に足田博康副理事長が登壇した。足田副理事長は、本日の議論と交流を糧に、組合員が一致団結して新たな30年の歴史を刻んでいくことを誓い、2026年新春賀詞交歓会は閉幕した。

ビジネスの移動革命、できます。



SMAS
住友三井オートサービス



SMAS
住友三井オートサービス

invite to new business mobility.

東京営業第一部
東京都新宿区西新宿三丁目 20 番 2 号
東京オペラシティビル
TEL: 03-5302-9893



新組合員オリエンテーションを開催

得た情報を自社経営に活かすための決断が重要



BSサミットアドバイザーの松永氏



松永氏はまず、国内の地域間格差が拡大している現状を指摘。「人口減少が進む一方で、地域により自動車保有台数の偏差値は大きく異なるため、全国一律の

「2025年度活動方針」と進捗状況、黒木専務理事からは「BSサミットの統一見解」、正田副理事長から「定款や各種規約」、そして藤野副理事長から「組織運営」について、また屋敷を挟んで「委員会活動の案内」など、組合の一人として押さえておくべきことの説明が行われた。



冒頭挨拶を行う石井理事長

BSサミット新春賀詞交歓会翌日の2026年1月15日(木)、ビジョンセンター東京(東京都中央区)にて新組合員オリエンテーションを開催した。本会には新組合員13社と各エリアのプロック長、支部長も参加し、オリエンテーションの内容を学ぶ場としても活用された。

戦略はもはや通用しない。経営者は自社のビジネスエリアにおける人口や保有台数の動向を精査し、その地域特有のニーズに基づいたモビリティサービスを提供していき必要がある」と説いた。

IAAE2026 純正スキャンツールからAI診断まで、各委員会が紐解く最新トレンド

今年も、国際オートアフターマーケットEXPOが2月12日(木)～14日(土)の三日間、東京ビッグサイト 東7～8ホールで開催される。今回は、過去最大規模となる720小間・34展示台(368社)の展示を予定。BSサミットは今年も大規模なブース出展を行い、活動の先進性をアピールすることで組織の増強を目指す。開催を直前に控えた今号では、各委員会が独自の視点で注目展示を紹介。国内の自動車メーカー12社の純正スキャンツールやAIによる車両スキャンなど、現場が今知るべき情報を凝縮してお届けする。



【次世代自動車研究委員会】

今年「日本の乗用車・大型メーカー12社」が出展し、一般事業者が入手可能な専用機(純正診断機)についての展示が行われます。汎用機では対応できない作業も増えている中、各社の専用機について知ることのできるまたとないチャンスです。また「MC ON JAPAN」が、約6秒で車体をスキャンできる機器を出展。スキャナーとAIによるデジタル車両状態チェックに注目です。

【フロント教育委員会】

近年、損害保険会社と整備事業者の関係性は大きな転換期を迎えてい

ます。保険代理店としての顔も持つ整備事業者のフロントとしては、損害保険の今後の展望を知るために「D-12 損害保険セミナー」や「A-22 サッチャマリサーチの取り組み」の聴講をお勧めします。また、展示では「スマートドライブ」が、タイヤの隙間から測定機器を入れて検査することができる新しい画像診断サービスを出展する予定です。プラスアルファの収益につながる可能性もあるので注目です。

【ロードサービス委員会】

ロードサービス関連では「あかつき」が積載車への車両積み込みをする際に使用する新商品を出展予定です。またインロックの解錠工具の展示と体験会も開催するとのこと。インロック解錠を体験した方からは「キーシリンダーの構造と仕組みをわかりやすく教えていただき、初めてでも難易度の高いインロックの解錠が数分でできました」と好評の声も聞いています。

【販売促進委員会】

BSサミットの協賛企業各社も新

商品や目玉商品を引っ提げて出展致します。「イヤサカ」は、2Gpaの鋼板が採用された車が上市されたことをうけ、新商品のスポッポッターを参考出品し、実際に体感できる展示を準備されるそうです。また「アクサルタ」は、塗装実演で全自動調色機を取り入れた紹介をする予定です。「実機は持ち込みませんが、宇都宮とライブで皆さんに紹介していく予定です」と伺っています。さらに「ウルトジャパン」からは、施工品質の均一化と作業スピードの大幅向上を実現する新商品「ガラスリペア自動式システム」を展示予定との情報が入っております。

【広報委員会】

第三者認証機関の「チュフラインランド ジャパン」が初出展です。日本のアフターマーケットにおける第三者機関の責務と役割について訴求されます。また「フジテレコムズ」は、入庫予約の自動案内、WEB予約受付、代車管理、工程管理と、入庫から次の入庫までのプロセスを自動化できるシステムを出展。自社の広報活動にも省力化・自動化の波が押し寄せています。

【組合員拡充委員会】

組合員企業の経営基盤の安定という観点から、人材に着目したセミナーや出展者をお勧めいたします。セミナーでは「A-13 官民一体での人材不足解消への取り組み」、「A-14 高度化する自動車整備および

整備人材の確保にむけた取り組み」、また福利厚生事例として「D-24 自動車ディーラーにおける新たな福利厚生戦略」。出展では、特定技能人材の就労をサポートする「アプティ」のお話を聞いてみてはいかがでしょうか。

【LMG】

この1年で急速に生成AIを使用するようになった方も少なくないのではないのでしょうか。24時間自動応答で予約システムやChat Botが対応してくれることに世の中が慣れてきました。「オートバックスデジタルイニシアチブ」は、様々な場面でDXが急速に進展する環境変化の中で、日本全国のオートバックス店舗の現場の声を集約したDX実践事例を紹介されます。また「三洋貿易」は、EV・PHEVがじわじわと普及・拡大する中で、EV・PHEVバッテリーの劣化度合い(SOH)を30秒程度で計測できる機器を展示します。中古車買取・販売事業者は必見の機器と言えます。

組合員の皆様には、ぜひ現場スタッフと共に現地に足を運び、最新の情報を肌で感じていただきたい。また、BSサミットとして推進している組合員拡充の観点からも、お知り合いの整備事業者や整備事業者を顧客に持つ企業(損害保険会社や部品商社など)にも積極的に声を掛けたい。



CAR-O-LINER®

カートロニック・ビジョン2 X2/X3

業界最多:約18,900種もの車両データを収録、あらゆる事故車に対応した究極のボディアライメントシステム

エーミング作業の前にはホイール・ボディアライメント作業が必要です



HUNTER

ホークアイエリート WA670

最新鋭のカメラシステムは精緻でスピーディな作業を実現! 高い信頼と生産性を約束します

「ぜひ紹介したい」と思われる接客を目指して

A photograph showing a group of people in a meeting room. A man in a dark suit and tie is standing and talking to a group of people, including a woman with long dark hair and a woman with long blonde hair. They are gathered around a table with some items on it. The room has white walls and a ceiling light fixture.

休憩を挟んで行われた第2ブロックでは「対面接客の基本とマニュアル」という実践的な内容を学んだ。本ブロックでは、まず身が

しなみ(第一印象)の重要性を再確認することから始まり、あいさつや表情、基本姿勢とお辞儀、さらには歩き方や座り方といった基本的なマナー、そして名刺の受け渡しや受付、ご案内、お見送りといった実践的なマナーまで、細かく学んだ。最後にロールプレイング演習で実践するところまで行った。

最後には、本研修をその日だけのものにしないように、参加者が各自「CIXの向上に向けたこれからの自身の行動」について、ともに学んだ仲間の前で自己宣言を行った。4時間弱の短い研修時間ではあったが、参加者達の立ち居振る舞いは、研修前と研修後ではまったく違いが現れていた。

◆ ◆
なおCSフロントスクー
ルは、本プログラムを含め
て全4プログラムで構成さ
れている。今回行われた①
接客応対の基本のほか、②

講師を務めた中尾知子氏

電話対応の基本③修理説明
④クレーム対応と続く。フ
ロント教育委員会として
は、今後も定期開催をする
ことで習熟度の醸成を図っ
ていきたい。

オートアフターマーケット連絡協議会 一各業界の動きから次の商機のヒントを探る

経済産業省による
「デジタルライフライン全国総合整備計画」の概要説明を実施

講演を行う経済産業省 商務情報政策局 小宮隆志氏



して実現することを目指していると説明。共同輸送支援システムや車両プローブ情報等を活用したV2N走行支援の検討など具体的な活動内容にまで言及された。また、今後の課題や方向性について、車両データ、通信方式、インターフェースを標準化することを挙げられた。これは海外勢によるデータ独占を防ぐ狙いがあり、小島氏は「日本の産業にとって生きるか死ぬかの課題」であるとの強い危機感を示した。2030年頃の本格的なサービス実現に向け、「官民連携してこの難局を目指すしていく」と講演を締め括られた。

その他、各会員からの最新状況と業界動向の情報交換では、BSサミットから金子幹司事務局長より最新状況として、カーコンビニ倶楽部との業務提携について、高度な技術を持つプロ集団と強力なデジタル集客の融合を意図していると説明を行った。また、業界動向としてOBD検査の本格運用と現場の課題について、また外国人材の受け入れ拡大や整備士資格の取得に必要な実務経験期間短縮など、人手不足対策が具体化していることが伝えられた。

同協議会代表理事を
務めるBSサミット
の藤野副理事長



技術革新により車検の在り方そのものが変化
する可能性も予見され
ます。車両保有台数が
対応できる組
です。本日
を共有し、
ていきまし

維持される中、需要に対応できる組織・企業作りが最も重要です。本日の会議で得た有益な情報を共有し、共にこの難局を乗り越えていきましょう」と挨拶を述べた。

今回の定例会では、経済産業省
商務情報政策局 情報経済課 アーキ
テクチャ戦略企画室の小島隆志氏を

お招きし「自動運転サービス支援道 想定ロードマップ（案）」についてテーマで講演いただいた。氏は「DX・デジタルの技術が人口が減少する中でもライフラインを維持させる」ことが最大の目的を語り、その基本としてハード（通信、道路、データ連携基盤、地図）とソフト（責任所在、運用認定）の両面での整備を官民が連携して進めたいと述べた。また、社会実装を目指す「スマートプロジェクト」について、高度に予想される深刻な人口減少を見据え、共同輸送などによる効率化・省人化をデジタル技術によるデジタル化を通じて実現したいと述べた。

2026年度1月定例会開催

NEW

BP経営マネジメントシステム

外国人技能実習生対応

バージョンUP!!

EBE BP Business Management System

作業状況一覧

cogniSEVEN

コグニセブン見積連動

簡単取込

ひらがな・カタカナ作業指示書

ぶひん とりはずし(社内)

からとぎ(社内)

7つのポイント

生産性向上を実現可能にする

① 実作業工程正確把握

② 車輛担当者別作業管理

③ スマホで作業状況確認

④ 技術レベル向上

⑤ 間接作業集計表

⑥ 各拠点での共有

⑦ 自社経営分析

作業指示書

担当者作業状況

株式会社 EBE (イーバ)

お問い合わせ先

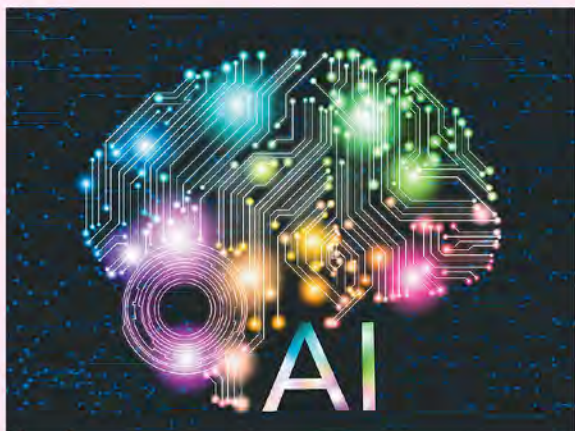
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-23-1 お茶の水センタービル4F

TEL 03-5298-1851 FAX 03-5298-1852

Q EBE 検索

https://www.e-b-e.co.jp

AI(人工知能)の現状と自動車整備業界における活用の可能性を考える



AIとは何か

昨今のニュースで「AI(人工知能)」という言葉を目にしないう日は一日としてないが、その実体は意外にもシンプルである。AIとは、コンピューターが膨大なデータを学習し、人間のように判断や予測を行う技術の総称を指す。決して機械が自らの意志を持って動くわけではなく、過去のデータを瞬時に分析して最適な解を導き出す「高度な計算ソフトウェア」と捉えるのが、現在のビジネスシーンにおける一般的な定義だ。

他業界で積み上げられた確かな実績

AIはすでに、私たちの身近な産業において確かな実績を築いている。製造業の現場では、画像認識AIが製品の微細な傷を24時間体制で検知し、品質維持の柱となっている。また医療業界においては、膨大な検査画像から病変の候補を特定し、医師の診断を補助する「第二の目」として機能している。これらの事例に共通しているのは、AIが人間に代わる存在ではなく、人間の作業精度を高め、負担を軽減するための「高度なツール」として活用されている点である。

自動車整備業界で動き出しているデジタル活用

自動車整備業界においても、AIはすでに実用段階に入りつつある。例えば钣金塗装の分野では、測色機で読み取ったデータをAIが解析し、数万通りのレシピから最適な配合を算出するシステムが普及し始めている。職人の経験値に依存しがちだった調色工程を標準化し、作業時間を大幅に短縮する可能性を秘めた技術といえる。

また、画像解析AIを用いて、スマートフォン等で撮影した事故車の画像から損傷範囲を判別し、交換部品や工数を予測するサービスも展開されている。具体的には、本年の自動車アフターマーケット展示会(IAAE2026)で紹介される「instavalo(インスタパロ)」のような最先端のAI損傷診断技術や、トヨタモビリティ



パーツが導入を開始した過去の膨大な点検データに基づく「AI整備見積りシステム」など、見積業務の迅速化やフロントスタッフの業務負担を軽減する新たな選択肢が次々と登場している。

さらに、ペイントレス・デントリペア(PDR)の分野では、ドイツに本社を置く「DRS」の日本法人がAIスキャナーを用いた革新的なサービスを展開している。これまで職人の「勘と技」に頼り品質のばらつきが課題であったPDRにおいて、AIスキャナーが損傷を客観的に記録・数値化することで、修理前後の状態を「エビデンス(客観的な証拠)」として証明することを可能にした。この技術は、特に一度に大量の車両が被害を受ける雹害(ひょうがい)修理において、

損害保険会社とのリアルタイムな情報共有による協定期間の短縮や、均一な修理品質の担保に大きく貢献している。

加えて、整備現場に欠かせないスキャンツールの分野においても、デジタルデータの活用が高度化している。車両から読み取った膨大なOBD(車載故障診断装置)データと、クラウド上に蓄積された膨大な故障事例やメカニックの知見を照合し、目に見えない不具合の根本原因を推論・提案する診断支援機能が進化を続けている。これにより、原因特定に要する時間の短縮や、高度化する電子制御車両への対応力強化という面で、現場を支える心強いサポーターとなりつつある。

医療現場に学ぶ「説明の質」の向上

さらに注目すべきは、AIがもたらす「コミュニケーションの変革」である。医療現場では、専門用語が多く難解な診断内容を、AIが患者一人ひとりの理解度に合わせて分かりやすい言葉や図解に変換する試みが始まっている。これは、患者が自身の病状を正しく理解し、納得して治療を選択する「インフォームド・コンセント(説明と同意)」の質を高めるための施策だ。



この考え方は、専門性が高く顧客への説明が難しい自動車整備の現場にも転用できる可能性がある。難解な故障原因をAIが噛み砕いて説明する資料を自動生成したり、摩耗した部品と新品の状態を比較画像として提示したりすることで、顧客の納得感を醸成し、より深い信頼関係を築くための強力な補助ツールとなり得るのである。

経営の選択肢を広げるために

AIは魔法の杖ではないが、深刻な人手不足や車両の電子制御化といった課題に直面する整備事業者にとって、人間の判断を支えるサポーターとなる可能性を秘めている。最終的な作業や判断を



行うのは、あくまで熟練した整備士の「手」と「目」に他ならない。しかし、そのプロセスに新たな技術という選択肢を採り入れることで、より効率的で信頼される現場環境を構築できるはずである。

広報委員会では、今後もこれらの技術が組合員の利益に資するものかどうか、中立的な立場で最新の情報収集と共有を継続していきたい。

業界動向ニュース

価格転嫁の武器を手にする前に…

新法下で問われる「工場の管理力」と「孫請けリスク」

2026年1月1日に施行された「取適法(中小受託取引適正化法)」は、中小受託取引事業者の利益保護を目的としていることは確かだが、一方で発注側の視点に立つと「法律が厳しくなったから、取引先を厳選せざるを得ない」というシビアな現実も浮き彫りにされている。今回の法改正により、発注側には価格協議の誠実対応や振込手数料の負担、60日以内の現金化といった重たい義務が課せられた。このコンプライアンス負担を嫌い、大手企業は事務処理が煩雑な小規模工場や、根拠のない値上げを要求する工場との取引を縮小し、管理の行き届いた優良な外注先へ集約させる動きを強めることが予想される。また、整備事業者自身が「加害者」になるケースの想定も必要だ。自らが下請けであっても、外部の钣金業者や一人親方に再委託(孫請け)を出した場合、自社の「発注者」として取適法の規制対象となる。口頭での発注や振込手数料の差し引きは、直ちに法律違反となる。知らぬ間に摘発の対象とならないよう注意が必要だ。



「下請法」は「取適法」へ
～知っておきたい制度改正のポイント～
今回の法改正により、発注側には価格協議の誠実対応や振込手数料の負担、60日以内の現金化といった重たい義務が課せられた。このコンプライアンス負担を嫌い、大手企業は事務処理が煩雑な小規模工場や、根拠のない値上げを要求する工場との取引を縮小し、管理の行き届いた優良な外注先へ集約させる動きを強めることが予想される。また、整備事業者自身が「加害者」になるケースの想定も必要だ。自らが下請けであっても、外部の钣金業者や一人親方に再委託(孫請け)を出した場合、自社の「発注者」として取適法の規制対象となる。口頭での発注や振込手数料の差し引きは、直ちに法律違反となる。知らぬ間に摘発の対象とならないよう注意が必要だ。



エアコンの性能を最大化するインジェクションクール

- オイルファウリングを解消し、エアコンシステムの本来の性能を引き出します。
- R134aおよびR1234yfを含む、あらゆる種類のエアコンシステムに使用可能です。
- 本製品6mlでエアコンガス6.0kgに対応しています。
- 施工は簡単。低圧ガスポートから注入するのみ。

品番: 0892704006

A/C PRO パフォーマンス添加剤クールショット 6ML

ウルトジャパン株式会社 | 045-488-4186 | support@wuerth.co.jp

スポット溶接機

1. 超高強度鋼板対応
2. 完全水冷
3. NEOスマート溶接プログラム搭載



MODEL SW-AZ105

スタッド溶接機

1. 薄板鋼板で裏焼けにくい
2. 厚板鋼板を強力に溶着
3. 可変バルスモード搭載



MODEL SW-5300F

樹脂溶接機

1. エアーのみで使用可能(窒素ガス不要)
2. 新開発溶接ストリップで簡単溶接
3. BMW/TOYOTA(EU) 車体補修プログラムに採用



MODEL PWA-10452

「明日をひらく」デンゲンの技術



DENGEN CO., LTD.



OBD 検査の開始から1年 急拡大する検査台数

OBD 検査がスタートしてから1年あまりが経過し、昨年10月からは輸入車のOBD検査も始まりました。検査の対象が初回車検ということもあり、スタート当初の実績は少なかったものの、2025年6月以降は人気車種のOBD検査が加わったことから、検査実績は【表1】のとおり、急増しました。開始から1年で、検査台数は約5倍となり、2025年11月には約8万台もの車両がOBD検査を受検しています。本年9月以降は、早くも2回目のOBD検査を受ける乗用車が出てくるなど、年を追うごとに検査台数は増加していくことが見込まれます。なお、輸入車のOBD検査台数はスタートからの2カ月間で268台という実績でした。

【表1】OBD 検査台数の推移



出典: OBD 検査モニタリング協会

車体整備とOBD 検査 シームレスに深まる関係性

OBD 検査は車検業務のため、車体整備との関係性は希薄にも感じますが、OBD 検査がDTCを取り扱っている以上、全く無関係とはいえません。車体整備作業によって記録されたDTCがOBD検査の際に、特定DTCとして検出され、その結果、検査不合格になるケースなどが考えられます。その場合、カーオーナーや車検を実施した事業者が、そのしわ寄せを強いられる可能性があるため、十分な注意が必要です。特定整備の施行後、整備事業者と車体整備事業者の関係はますますシームレスになりつつあります。したがって、車体整備事業者もOBD検査の動向については注視しておくことが重要です。

【表2】OBD 検査の不適合率 (2024年10月1日~2025年11月30日)

検査実施主体	検査台数			不適合あり率 (%)
	計	不適合なし	不適合あり	
指定自動車整備工場	455,213	438,938	16,275	3.6
(独)自動車技術総合機構	33,803	31,218	2,585	7.6
軽自動車検査協会	42,151	41,104	1,047	2.5
計	531,167	511,260	19,907	3.7

【表3】指定自動車整備工場における主な不適合要因と不適合台数

不適合要因		前四半期 (2025.7.1-9.30)	直近1年間 (2024.10.1-2025.9.30)
排ガス系	電圧不足	157 (0.1%)	469 (0.1%)
	警告灯信号	13 (0.0%)	44 (0.0%)
	レディネスコードなし	1,297 (0.9%)	4,052 (1.3%)
	通信不成立	1,142 (0.8%)	3,188 (1.0%)
	特定DTC	16 (0.0%)	48 (0.0%)
安全系	特定DTC	2,164 (1.6%)	8,028 (2.5%)

出典: OBD 検査モニタリング協会

安全系特定DTC2.5%検出 DTC未消去と結線忘れ

これまで実施されたOBD検査で不適合が検出された割合は全体で3.7%です【表2】。OBD検査開始直後は検査システムや特定DTC照会アプリ、検査用スキャンツールの操作に対する不慣れな作業などが原因で、不適合が検出される割合が高かったのですが、作業者の習熟度が高まるにつれ、不適合あり率は格段に減りました。なお、不適合要因として最も多いのは安全系特定DTCの検出です【表3】。指定自動車整備工場の検査では1年間で2.5%の不適合が検出されています。安全系特定DTCの検出は一時期、3.9%の高い割合を記録した時期があり、国土交通省はその要因として、以下の2点を指摘しました。

安全系特定DTCに関する国土交通省のモニタリング評価

- 安全系の不適合については、整備の過程において記録された特定DTCが、整備後に消去されないまま検出された可能性がある。
- 安全系特定DTCの内訳ではセンサの通信途絶が最も多い。通信途絶が記録される原因として、センサ類のバンパー等を取り外して行う修理後の結線忘れ等が原因である可能性もある。

出典: OBD 検査モニタリング協会

その後、安全系特定DTCの検出が減少に転じたことで、国土交通省は上記留意点を周知した効果があった可能性を報告しています。整備後のDTC確認が行われていることで、DTC消去が促進されるとともに、センサーの結線忘れの未然防止にも効果をあげていることが考えられます。

ブレ診断とポスト診断で 品質向上とリスク回避

車両の入庫直後、整備・修理を開始する前に行うブレ診断(入庫時・作業前スキャン)とすべての修理やエーミング・キャリブレーションが完了した後、納車前に行うポスト診断(作業後・出庫前スキャン)のダブルチェックは、円滑なOBD検査業務に大きく貢献します。今や、車体整備の現場では常識となったブレ診断とポスト診断の徹底が自社の整備品質向上と自社の責任リスクの回避を含めて、特定整備時代における有効で有用な対応といえるでしょう。

結線忘れのみならず 車載通信のトラブルも

ADASの進化による各種センサー数の増加や多様化で、従来の部品脱着・交換作業の工数は確実に増加しています。超音波センサーや全方位モニターのカメラ、ミリ波側方レーダーはその最たる例であり、作業の複雑化で、整備に様々な制約が生じているのが現状です。整備士による、センサーの結線忘れという単純ミスもさることながら、カプラーの嵌合、短絡など、多くの原因が考えられます。この他、電子制御装置回路の熱暴走、車載通信のネットワーク異常など、目視で判断できないケースも増えているため、スキャンツールによるチェックはもはや欠かせない作業といえるでしょう。

OBD 検査の電圧不足 電圧安定化は不可欠

他方、OBD検査では電圧不足による不適合も発生しています。近年の高性能バッテリーは頻繁な充放電サイクルを繰り返す特性があるため、整備作業においても注意が必要です。とりわけ、近年の整備作業ではスキャンツールによる各種作業が増加しており、作業によってはバッテリーの電圧不足を招く可能性は否定できません。もしもエーミング作業の途中で、電圧低下が生じた場合、ECUを破損させてしまうおそれがあります。車両側から電源をとる際は必ず、バッテリーチャージャーを接続して電圧の安定化を図るように務める必要があります。



スキャンツールを用いた作業での電圧安定化は今や必須作業。

現在、一般的な乗用車のOBD検査は初回車検が対象ですが、2年後の2028年には車齢7年の乗用車が、専業・兼業の整備事業者に入庫することになります。低年化することによる不具合の増加などを考慮した場合、現在よりももっと不適合は増加する可能性が高いといえます。DTCの管理はますますシビアになっていくことが予想されます。

月別リサイクルパーツ別実績 2025年11月～2025年12月(全国)

※その他「エンジン・ミッション・ラジエター・コンデ
ンサー・コンプレッサー・フロントガラス等のリサイク
ルパーツ(新品パーツは除く)」

内 訳	2025年		合 計 数 量
	11月	12月	
	数 量	数 量	
フロントバンパー	265	254	519
リヤバンパー	166	184	350
ヘッドライト	402	354	756
ボンネット	108	116	224
フェンダー	273	263	536
ドア	419	498	917
トランクリッド・リヤゲート	108	117	225
テールランプ	263	276	539
その他※	1,922	2,152	4,074
合計	3,926	4,214	8,140

BSサミット
販売促進委員会

リサイクルパーツ普及拡大に向けて リサイクル部品の新時代へ…2団体統合がもたらす価値

事故車修理時のコスト低減は、損害保険会社やユーザーにとっても、ますますニーズが高まっております。BSサミットでは、環境負荷低減とともに、こうしたコスト削減に寄与することを目的として、販売促進委員会を中心とし、自動車補修部品のリサイクル促進を進めています。今後とも積極的なリサイクルパーツの活用をよろしくお願いいたします。

自動車リサイクル業界を牽引するJAPRAとJAERAが、統合へ向けた協議を開始しました。このニュースは、我々修理事業者にとっても大きな転換点となる可能性を秘めています。これまでは「部品の流通」と「解体の現場」で役割が分かれる傾向にありましたが、双方が手を取り合うことで、リサイクル部品の「信頼性」と「利便性」がさらに向上することが期待され

ています。EVや先進安全装置の普及により、中古部品の適合確認は難易度を増していますが、統合によって「解体現場の知見」と「流通側の品質管理」が一体化すれば、より高度な技術情報やサポートが提供される環境が整っていくと見られています。組織統合という業界の大きな動きを追い風に、自信を持ってリサイクル部品をお客さまへ提案していきましょう。

ストップ！ 粗悪修理！！

「ストップ！粗悪修理」は、次世代自動車研究委員会や広報委員会を中心に収集している他社工場での粗悪修理を紹介しております。

当コンテンツは、本来はあってはならない修理不具合・不正修理の現状・実態を明らかにし、適切な修理を行うことの重要性を呼びかけることで業界の健全化に寄与しています。今後も主旨をご理解いただき、不具合車両の撲滅とユーザーへ安全・安心を提供すべく「修理不具合情報」のご提供を宜しくお願い致します。

ご提供頂きたい情報

- 表面的な修理にとどまり、内部は手付かずの不完全修理
- 誤った修理方法による、本来の機能を回復していない修理事例
- カメラやセンサーなど電子制御装置に関わる不具合修理

その他、これはどうだろうかという事例がございましたら遠慮なくお送りください。



【情報提供フォーム】



この様な不具合車両をなくすために、皆様からの情報提供をお願いします。

不完全修理例①

直進不能！骨格修理の不備が招く重大リスク

中古車で購入した車両が「真っ直ぐ走らない」との訴えで入庫した。点検の結果、過去の事故修理における致命的な不備が露呈した。

最大の問題は、車の骨格部材であるサイドメンバーの寸法が正しく復元されていない点にある。この歪みが走行性能を著しく阻害し、直進走行を不可能にしていた。さらに、エアコンのガス漏れや、強度不足のまま強引に修理されたヘッドランプなど、安全性を度外視した痕跡が次々と見つかった。これらは本来の性能を無視した「粗悪修理」の典型例である。



不完全修理例②

サスペンションの歪みを放置！安全を軽視した「未完」の修理

「過去の事故修理について、前回の工場が取り合ってくれない」という切実な訴えとともに、一台の車両が入庫した。点検の結果、右側サスペンションの重要部品であるロワーアームに変形が認められた。ロワーアームの変形は、タイヤの異常摩耗やハンドリングの悪化を招くだけでなく、走行中の制御不能に繋がりがねない極めて危険な状態だ。今回の入庫では、安全を最優先しナックルやストラットを含めた一式交換を断行した。外観だけを整え、走行安全性に直結する深部の損傷を放置することは、修理責任の放棄に他ならない。



自動車整備業に関わる皆さまのお役に立ち続けるため
未来の地球環境を明るく照らし続けます。

さらなるCS向上へ向けたリサイクルパーツの提案に

リサイクルパーツ発注システム

Reparts Direct System

リパーツダイレクトシステム(RDS)

皆様、安心して「リパーツダイレクトシステム」をご利用いただけるよう「BSネットワークコールセンター」の専任スタッフがお客様が発注いただいたパーツの適合確認をさせていただきます。正確な部品発注をサポートしております。

自動車リサイクル部品のお問い合わせは

BSネットワークコールセンター
Tel.052-441-7503(平日9:00~18:00) Fax.052-441-7628



株式会社ビッグウェーブ・株式会社JARAは賛同し合い常に最高品質の自動車リサイクル部品の生産と販売に取り組んでいます。



NGPの
リユースパーツ

驚異の！
クレーム率0.6%
(※)

年間
販売
点数140万点^(※) 全品保証付き

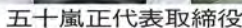
リユースパーツのご注文は
高品質部品のNGP組合員まで
最寄りのNGP組合員はこちら

※2024年9月～2025年8月までの年間実績

NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合 / 株式会社 NGP
〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F TEL:03-6705-1208

和幸工業の原点と事業内容

しかし、後発の整備工場としてのスタートは決して平坦ではなかった。当時の地域人口は1万5000人



経営改革と「稼ぐ組織」への変貌

入社当時の和幸工業は、



見直しを断行した。その結果、正氏が入社した当時、は年間8000台程度であった車検台数は、一拠点で3,000台を超えるまでに急増。現在では、グループ全体で年間5,3000台以上の車検実績を誇る規模にまで成長している。

BSサミット入会で

ロードサービスと最先端情報を獲得

和幸工業がBSサミット事業協同組合に入会したのは2001年のことである。入会の背景には、単独の工場では得ることが難しい、業界の先進的な情報の共有を求める狙いがあった。

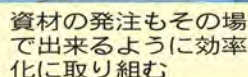
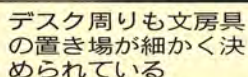
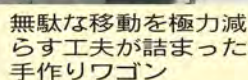
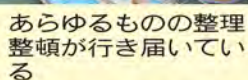
入院中の先代にレッカー車の導入を直訴し、即座に事業を開始した。現在、同社のロードサービスは年間2,000件以上の出勤実績を誇る主要事業へと成長している。

また、BSサミットを通

正氏がBSサミットの真
じで得られる情報は、現場
の技術革新にも直結してい

強靱な組織づくり

和幸工業の圧倒的な生産性を支える根幹にあるのが、株式会社武蔵野から学んだ「環境整備」と「経営計画書」の運用である。この手法との出会いは、BS員工場―中部自動車―見学であった。株式会社武蔵野のメソッドを実践する同社スタッフが生き生きと自社を取り組みをプレゼンする姿に衝撃を受けた正氏は、即座に武蔵野の門を叩き、以来20年以上にわたって学



びを続けている。

同社の「環境整備」は、単なる美化活動ではない。「仕事のしやすい環境を整えて備えること」と定義され、「二歩、一動作、一関節を減らす」という徹底した合理化に基づいている。

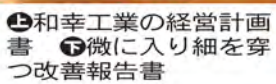
さらに、正氏は全社員に対して「経営計画書」を配布し、方針の周知徹底を図っている。毎月1回の「環境整備点検」は既に240回を超え、一度も欠かすこ

例えば、具は壁掛けにして配置を固定し、一目で有無が分かるように管理されている。これにより、作業スタッフが工具を探すという「無駄でストレスな時間」をなく継続されている。正氏は「経営計画書と環境整備がなければ今の会社はない」と断言するほど、この二つを組織運営の柱としている。

タイヤ販売の強化と
海外人材の積極採用

今後の展開として、和幸工業はタイヤ販売のさらなる拡大を見据えている。2021年にタイヤ専門店「タイヤ市場」にF/C加盟して以降、情報の提供とス
ビザを持つ外国人スタツフが10名以上在籍している。フロント業務で活躍するス
リランカ人スタツフもあり、国籍を問わず活躍できる環境が整っている。

正氏の経営思想の根底にあるのは、「誰が欠けても事業が継続できるリスク管理」である。指定工場を市内に2拠点持つことも、互が一つのトラブルに備えたりスクヘッジの一環である。最新のヘッドライトシステムや電子伝票システムの導入、そして多種多様な人材の育成と、常に「次の一手」を打ち続ける和幸工業。その姿は、変化の激しい自動車アフターマーケット業界で、生き残るための明確な指針を示していると言える。



入金方法はここ